

9月議会 砂田市議の一般質問

9月議会の一般質問で砂田市議は学童保育の時間延長や少人数数学級実現と教師の多忙化解消、アスベスト・中皮腫など健康被害対策などについて取り上げ質問しました。



質問する砂田市議

少人数数学級の実現への取り組み

砂田市議 少人数数学級実現への取り組みはどうか。高校の再編問題もあり、中高全体に実現するよう取り組んで欲しい。
教育長 今年8月22日に開催された富山県市町村教育委員会連合会において小中学校における35人以下学級の県独自の措置による早期実現をひきつづき県に強く要望することを決定した。また、全国都市教育長会議では少人数数学級実施に向けた法整備および教職員定数の改善を国に要望している。本市としては将来的な30人学級の実現を見据え、まずは小中学校における35人以下学級の全学年での実現

子どもの減少 教育条件の改善の チャンスに

砂田市議 「子どもの人数が減るから学校の統廃合」という話が出ている。しかし、これをチャンスに少人数学級の実現など教育条件の改善に取り組むべきだ。
学校は義務教育として市町村の主要な任務の一つであり、昭和の大合併でも中学校を保持する規模の自治体というのが合い言葉になったこともある。学校は地域と密着している。し

学校の統廃合は論外

たがって市の公共施設に占める教育関係の面積が一番多いのは当然であり、これを問題にすることは見当違いである。
しかも小矢部市は、すべての小中学校の耐震化、普通教室へのエアコンの設置を県下に先駆けて実施した先進自治体と行ってもよい。合併しないことを選択した小矢部市は、合併した自治体とは違う。それなのに統廃合で、今ある学校を無くしろと言っているのは乱暴すぎる。児童・生徒数が減少に向かう今こそ、教育条件を拡充するチャンスととらえるべきである。

アスベスト・中皮腫などの健康被害救済対策

市としても周知に努めたい

砂田市議 中皮腫の発症までに数十年かかる。建設業や電気工事業などに従事して、何十年も前にアスベスト撤去やアスベストが吹き付けられていた現場で仕事をして、いまになって被害が顕在化した事例がある。元請けやその下請企業が倒産や廃業で存在しない場合もある。そのような場合でもアスベスト・中皮腫の健康被害を救済する方法はある。
企画政策部長 労災や石綿健康被害救済法が施行されているが、これらの制度を知らず申請していないケースもある。本市としてもさらなるアピールとして企業協会等を通じ被害の防止対策、被害を受けた際の救済制度について機会を捉え周知に努めたい。



学童保育時間延長

「来年4月から改善したい」 民生部理事

砂田市議 学童保育時間延長が認められなかったことについて「子育てのしやすい市と聞いて移住してきただけに、シヨックです」、「正社員として働いて、せっかくなので、せつぱく築き上げてきたものを、放課後児童クラブのた

利用者アンケート トを9月実施

民生部理事 放課後児童クラブを利用されている方や、来年度から小学1年生になる方を対象に、利用希望に関するアンケートを今月実施する。その結果をふまえて、平成30年4月からの開設時間の延長を検討し、利用希望に慮るよう運営方針を検討し、改善したい。



教師の多忙化解消に向けて

部活指導員の学校 職員としての活用は？

教育長 県では県立学校での部活指導員の導入に向けて保健体育課内に検討のためのプロジェクトチームを設置し、現在PTAや学校長、体育団体など関係者からの要望をとりまとめている。本市としては富山県市町村教育委員会連合会において、中学校における部活指導員の身分等の保障に関する法的整備と財政支援を盛り込むことを提案した。その結果、県下

教師の勤務時間を 把握し、その改善を

砂田市議 各学校にタイムカードの導入をしてはどうか。全国的に1割の導入とのことである。

今年から2カ年で 各校に複合機を配備

砂田市議 印刷機、コピー機が足りず、仕事が遅れるこ

教育長 校務支援システム

を構築して、その中で先生方の多忙解消を図り、生徒・児童と向き合う時間の充実をめざすことを努力している。タイムカード方式ではなく、今回導入する校務支援システムのなか

教育長 現在各学校には

とはないのか。さまざまに事務機器を設置して、授業で使用しているプリンター等の作成に活用している。通常の使用には特に支障を来すことはないが、学習発表会などの行事、通知表等の印刷の時期には使用が集中すると聞いている。本市としては本年度から2カ年で学校事務室(コピーとプリンター)の両方の機能を有する複合機を導入すること

